

開催地名	大阪府忠岡町
開催日時	令和6年1月28日（日） 10:00 ～ 11:45
開催場所	忠岡町ふれあいホール
語り部	菅原 康雄 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織 57名
開催経緯	近年、全国的に様々な災害が発生していることから、防災に対する関心は高まっているが、具体的にどのような活動をするべきか悩みを抱えている自主防災組織等が多いと考えられる。また、高齢化などの理由で、自主防災組織の活動が減少しつつある。今後の防災活動について考えるきっかけにするとともに、自助・共助の重要性を一人一人が認識し、明日は我が身という、災害に対する危機管理意識の醸成を図りたい。
内容	<p style="text-align: center;">～隗より始めよ～</p> <p>（1）福住町方式と減災とは</p> <p>415世帯1117名の福住町。役員40名（女性40名）の町内会の我が方がやっていることは減災である。そのために日頃から訓練、協力体制、支援から支縁を行っている。福住町自主管理マニュアルを作り、家族構成名簿の作成、要支援者がすぐにわかるほど細かなシステムを作った。そのマニュアルの概要としては、役員には各担当の割り振りを決め、発災時に誰がどの要支援者のところへ向かうかなど細部に渡って取り決めている。防災訓練というと参加者が少ない傾向にあるが、『夏祭り』と言えば誰でも参加してくる。その祭りの中で防災訓練と称した催し物を組み込むことで、周知できるようになってきた。小・中学校も月曜日を代休にし、日曜日（休日）登校で家族参加型の訓練も行っている。私は獣医師ということもあり、動物を連れての避難の仕方や、避難所における動物がいる意味、大切さなどを伝えてきた。</p> <p>3月11日の発災時、町民の行動のおかげで1時間のうち2回の安否確認ができ、災害対策本部にまで報告ができた。その他、できるだけ行政に頼らずに、町民はまず町内会の避難所へ向かい、隣接する公園に簡易トイレや瓦礫置き場を作るなど、初期の10日から14日の間は、自分たちで乗り切る、ということをやって見せた。まさに日頃の訓練と地域住民のつながりの賜物であった。現在でも『備える』、『頼れる』に強力な助っ人として災害時相互協力協定として交流し、他助として届けられた物資を他の被災者への搬送やメンタルヘルスケアを町として実施している。</p>

(2) まとめ

福住町では、災害がいつ来ても立ち向かえる力を身につけるために、防災技術を得ることが訓練だと考えている。止むことのない災害に、より強く危機管理意識を一人ひとりが自覚し、まずは自分が助かるための最善策を真摯に、考え貫くことを町民に伝えていくことが重要だと私は考える。防災については、今後も継続して町民に働きかけ、もっと皆がより必要なものだと認識、認知できるように、活動を続けていく。



開催地より

ご自身の体験談を交えながら、住民の危機管理意識を向上させること、自助・共助に力を注ぐことの大切さについてお話をしていただき、防災について色々と考える機会になったと思う。特に、避難所での身体的負担やトイレ問題等の疫病で、災害関連死が発生している点についても深く考えさせられた。

今後本町として、各自主防災組織の防災意識、防災力向上を目指すとともに、自助、共助の意識強化の取組みを進めていきたいと思う。